

新

みどりの大使が行く!

「第57回ミス日本コンテスト2025」が都内で開催され、12名のファイナリストから各賞の受賞者が決定しました。「2025ミス日本みどりの大使」は佐塚ころさんです。

みどりの大使は、ミス日本各賞の一つで、これからの1年間、森林の大切さや木の文化のすばらしさを伝え、みどりと木への親しみを広める役割を担います。

みなさんこんにちは

2025ミス日本みどりの大使に選出されていた佐塚ころさんです。現在19歳、国際基督教大学の1年生です。私は長野県で生まれ育ち、通っていた小中学校の校舎は地元で有名なカラマツが使われていたなど、たくさんの木々に囲まれた環境で育ちました。小学4年生からは緑の少年団に所属していました。カラマツとシラカバを植樹したり、チェーンソーを使って木を伐ったり、丸太を運ぶ大型機械に乗せてもらったりしたことがとても印象的です。また、

故郷は佐久穂町

現在は資格取得や手話の学習に最も熱中して取り組んでおり、将来は障害の有無や言語の壁にとらわれずすべての人に平等に情報を届けられるアナウンサーになることを目指しております。どうぞよろしくお願います。

2月には私の母校である佐久穂小・中学校に伺い、学校林を見学しました。佐久穂町では子どもたちに林業に親しんでもらうため、キャリア教育の一環として森林林業体験学習を実施しています。町・教育委員



2025
ミス日本
みどりの大使
佐塚 ころ



9年前に植えた木々たち どれが自分のものかはわからず

会・地元産業が三位一体となり「さくほ森の子育成クラブ」を構成し、町有林の11haを学校林として、総合学習授業で毎年児童生徒とともに森林整備等をしていくものです。学校の枠に留まらず、地域の産業を体



お話を伺った校長先生は当時の担任

験しながら学べる取組は珍しいと伺いました。今思うと、林業と町を結びつけた形で郷土愛を育んでくれている素敵なカリキュラムだったと感じています。

学校林の見学では9年前に私が植樹した木と、去年植えられた木の成長の差を如実に感じる事ができました。順調に大きくなっている木が多かったのですが、カラマツに比べるとシラカバは枯れているものが多いありました。シカによる食害の被害が毎年深刻で、シラカバは皮が柔らかく美味しいので食べられてしまうと伺いました。林業は自然が相手なので、一筋縄ではいかないと感じた部分でした。

学校林で伐採された木は「シラカバツミキ」「からまつアート」という木工品になり、新生児にプレゼントして木への親しみを育むそうです。伐って、使って、植えて、育てる、そのサイクルは未来に向けて繋げていくことが真の意味での循環型の森林に結びつくのだと感じました。



「ミス日本みどりの大使」とは

公益社団法人国土緑化推進機構Webサイト「みどりの大使」
(<https://www.green.or.jp/promotion/midorino-taishi/entry-1679.html>)



林業の現場で働く方からお話を伺いました

林業に携わる方の声を聞いて

学校林の見学と併せて、佐久穂町で林業に携わる株式会社吉本の皆様に直接お話を伺いました。昔と現在が変わったことをお聞きしたところ、10年前くらいはまだまだ機械化が進んでおらず、労力も時間も多かったが、現在は負担が大きく減っているとお話されていました。また、現場で働く40代の方からは、東京で務めていた会社を辞めて長野県で林業をしようと思いついたお話もお聞きすることができました。自然相手に仕事をしたいと考えられ、都会の仕事に比べて林業はストレスが少なく理想

キノハナマイスター育成講座

私の故郷の佐久穂町の隣にある北相木村にて、一般社団法人キノハナマイスター協会によるキノハナマイスター育成講座を受講しました。キノハナとは木のカンナ屑でできた造花で、北相木村で生産活動をしている「キノハナkinanano」はウッドデザイン賞も受賞するほど、洗練された技術を持っていると伺いました。一見シンプルに見えるキノハナですが規定が細かく定められていて、1日練習しただけではうまく作



株式会社吉本の由井社長

的な仕事であったことを静かに語ってくださいました。森の魅力をもっと知っていききたいと感じた体験でした。



地元木工店でカンナ掛けを体験

「キノハナマイスター」として自分にはどのようなことができるかを考えて発表しました。私はみどりの大使の活動を発信する際に、沢山の人が地元や地方の魅力に気づき、将来的には移住なども検討してもらえることを目標に設定しました。

すぐに達成することは難しい目標かもしれませんが1年間の活動を通して目標に近



慎重に作成

ることは難しかったです。指導して下さった村の女性の方々が、熟練した手つきで次々と作っているのを拝見し、さすが日本一の技術を誇る北相木村だなとしみじみと感じました。講座の最後に行われたアクションプラン作りでは「キノハナマイス



修了証書を受け取りました

づけるよう努力をしていきたいです。「キノハナマイスター」として子供たちの前やさまざまな施設で、キノハナの美しさを広げていきたいです。

これから1年間、日本全国の様々な現場での様子を見学しながら森林のことをもっと学んでいきます。1年間どうぞよろしく願います。



完成したキノハナ